



翔洋通信

翔洋学園高等学校
渉外・図書部編集
平成30年10月31日発行

第4回校内芸術展 ～総数521作品から40作品が入賞～

平成27年度より、生徒が個性を活かし活躍できる場を広げようと始め校内芸術展も、今年で第4回目となり、総出品数 521 点の作品が出展され、40 点の作品が各部門において入賞しました。

美術の部（絵画・CG）

賞	センター名	氏名
最優秀賞	会津	丸山 葵
優秀賞	水戸	大久保 虎将
	会津	中丸 未結
優良賞	土浦	吉江 ふうか
	土浦	藤田 穂香
	古河	稲村 美咲

美術の部（写真）

賞	センター名	氏名
最優秀賞	会津	佐藤 雄次
優秀賞	稲門	船越 和
優良賞	日立	廣瀬 結梨

美術の部（切り絵）

賞	センター名	氏名
最優秀賞	古河	稲村 美咲
優秀賞	下館	早瀬 美由希

書道の部（毛筆）

賞	センター名	氏名
最優秀賞	水戸	岡崎 真代
優秀賞	水戸	北嶋 千裕
	会津	村澤 珠
	会津	鈴木 光
優良賞	日立	廣瀬 結梨
	柏	小林 桃香
	下館	植竹 彩
	会津	大竹 柚綺
	ネット	宮川 万里奈
入選	土浦	荻沼 麻美
	土浦	市村 真優
	柏	富田 早玖
	柏	松崎 美久
	古河	鈴木 美優
	いわき	渡辺 愛美
	会津	内藤 隼汰
	会津	横山 花音
	会津	賀川 萌美
	会津	高橋 裕人
山形	遠藤 大志	

文芸の部（俳句・川柳）

賞	センター名	氏名
優秀賞	ネット	鈴木 海音
優良賞	ちば中央	雅 隼翔

文芸の部（短歌）

賞	センター名	氏名
最優秀賞	ちば中央	金川 みゆ
優秀賞	ちば中央	吉永 萩
優良賞	ちば中央	雅 隼翔

文芸の部（散文）

賞	センター名	氏名
優良賞	日立	廣瀬 結梨
	いわき	反町 明莉

※入賞した作品で、一部氏名等を掲載していないものもあります。



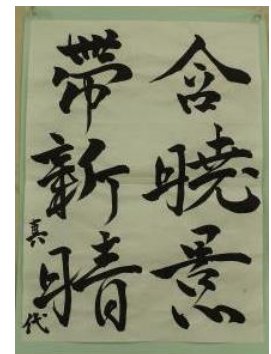
美術の部（絵画・CG）
最優秀賞「夕立ちのクジラ」
会津学習センター 丸山 葵



美術の部（写真）
最優秀賞「Banaba」
会津学習センター 佐藤 雄次



美術の部（切り絵）
最優秀賞「水面を舞う金魚」
古河学習センター 稲村 美咲



書道の部（毛筆）
最優秀賞「含曉景帯新晴」
水戸学習センター 岡崎 真代

今回の第4回校内芸術展は、全部門を合わせ総出品数 521 点にまで増えました。少しずつ生徒の皆さんにも認識されてきており嬉しく思います。

特に今年度のトピックスとしては、切り絵作品の出品があり、その出来栄にも驚かされました。さらに書道部門毛筆の出品点数が大幅に増えたことと、全体の作品レベルの向上もはっきりと感じられ、生徒一人ひとりの個性あふれる作品を目の当たりにすることができました。

日頃から美しいものや芸術の世界に触れている生徒、何かを作り出すことに興味を持っている生徒など、まだまだたくさんいると思います。次年度はさらに素晴らしい作品が多数寄せられることを楽しみにしています。

教務部より ～学習指導要領改訂に向けて～

平成30年度も折り返しとなりました。去る9月22日(土)には前期卒業証書授与式が柏学習センターを拠点に挙行され、今年度前期は25名の卒業生が世に羽ばたき、本校の卒業生はのべ12,153名となりました。

さて、平成34年度の完全実施に向け、高等学校学習指導要領が改訂されました。学習指導要領とは、全国の地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準として定めているものです。高齢化による生産年齢人口の減少、成人年齢の引き下げ、グローバル化の進展、技術革新等により社会や職業の在り方が、今後大きく変わっていく可能性があります。そのような将来を見据え、「自立した人間として他者と協働しながら未来を切り開く力」を育成する教育課程(カリキュラム)にすることが今回の改訂の主旨となっております。

本校では、生徒一人ひとりが自分の未来を創造する力を「明日力」と呼び、その力を学校生活の中で育てていくことを教育方針として掲げており、定時制通信制体育大会や各種芸術展の企画・参加、各学習センターにおいては、様々な体験的・実践的な学習活動や行事を企画し、生徒の主体的な学びや活躍できる場を積極的に設けております。

今後は学習指導要領の主旨を生かし、新設科目や学校独自の学校設定科目なども開発し、本校における教育活動を通して、自立した人間や、未来を切り開く力、「明日力」の育成に努めていきたいと思っております。

一生に一度！思い出に残る修学旅行

9月26日(水)から29日(土)の沖縄修学旅行は台風の影響を心配しながらの出発となりました。

初日の行程はひめゆりの塔での平和学習。戦争の体験談を、館内スタッフの方が丁寧に解説して下さり、戦争の悲惨さを学びました。その後夕食をとり、初日は予定通りの行程でホテルに到着することができました。

2日目は台風接近の影響を受け、海でのマリン体験は安全を優先させ中止としたものの、午前中は美ら海水族館見学を満喫し、午後はキャンドルづくりやアクセサリーづくりの体験を行いました。海に入れないのは残念でしたが、生徒たちは沖縄でのゆったりした時間を楽しく過ごすことができました。

しかし、楽しい体験活動の裏では大きな決断がなされておりました。台風の影響で、急ぎ翌日の臨時便で沖縄を発つことにしたのです。

3日目は朝食を食べてすぐ空港に向かうことになってしまいました。なんとか途中国際通りに寄ってショッピングの時間を設けることができ、短い修学旅行の最後に沖縄ならではの時間を過ごすことができました。

行程が短くなってはしまいましたが、全員が無事に帰って来られたこと、そしてアクシデントがありながらも、一生に一度の修学旅行で友人と過ごす時間はかけがえのない思い出になったのではないのでしょうか。

◆「修学旅行を振り返って」 千葉学習センター 佐々木 望瑛 ◆

私が沖縄での修学旅行で一番思い出に残っていることは美ら海水族館です。私は水族館がとても好きなので今回の旅行の中でも特に楽しみにしていました。水族館ではイルカショーを見たり、ナマコに触ったり、亜熱帯の色々な魚を見ました。初めて見たジンベエザメはとても大きく、何よりとてもかわいかったです。

台風で滞在できる日数が減って寂しい気持ちはありましたが、他のセンターの人や先生たちとたくさんお話しできてとても楽しかったです。何より、私は今年で卒業なので、高校生活最後の年に大好きな友達と担任の先生との思い出がたくさんできたことがとても嬉しかったです。また機会があったら沖縄に行きたいと思いました。



定時制通信制生徒生活体験発表大会

『定時制通信制生徒生活体験発表大会』は、定時制や通信制の学校で学ぶ生徒が学校生活を通して学んだ貴重な体験を発表する場として、全国規模で行われています。

翔洋学園では、毎年各センターからの代表者による校内発表会を実施し、厳正な審査の下、学校代表の2名を選出しています。学校代表に選ばれた2名が県大会へと進み、これまでに何度も茨城県代表として全国大会出場を果たすなど輝かしい実績を残すとともに、自らの体験や想いを発表することで自分をみつめ、豊かな心やコミュニケーション力を育む大切な教育活動の場となっています。

今年度は7月27日（金）に水戸学習センターで校内発表会が行われ、8センター9名が参加しました。生徒1人ひとりが学校生活を通して、体験し、学び、感じたことを表現力豊かに自分の言葉で発表する様は聴く者の心に感動と励ましを与えるものでした。生徒たちは学習センターも違い、初めて会った者同士でしたが、校内発表会が終わるころにはすっかり仲良くなっていました。これも全センターが一堂に会して行われる生活体験発表校内発表会の醍醐味だと思います。（発表内容は下表参照）

発表順	学習センター	氏名	演題	賞
1	会津	渡部 瑠菜	今、伝えたいこと	優秀
2	柏	豊田 涼斗	僕の高校生活	優良
3	いわき	熊谷 楓	「夢の途中・・・」	優秀
4	日立	會澤 結衣	“私”のシナリオ	最優秀
5	千葉	鄭 仁榮	君は独りじゃない	優良
6	土浦	宮本 尋斗	現実を見つめて	優良
7	水戸	大久保 虎将	不安	最優秀
8	土浦	斉賀 真	私のこれから	優秀
9	古河	山本 真澄	一步前へ	優良



その中で、最優秀賞に選ばれたのは會澤結衣さん（日立本校3年生）と大久保虎将君（水戸学習センター3年生）でした。この2名は10月6日（土）に水戸南高校で行われた茨城県大会に出場し、會澤さんが第1位の茨城県知事賞及び茨城県定通振興会長賞を、大久保君が奨励賞を受賞しました。會澤さんは茨城県代表として11月24日（土）に六本木ヒルズ、ハリウッドプラザで行われる全国大会へ出場します。本校生徒の全国大会への出場は2年連続の快挙です。

“私”のシナリオ

日立本校 3年 會澤 結衣

「大丈夫だよ」私が中学生の時、教室に入るのが怖いと言うと、担任の先生はいつもこの言葉をかけてくれました。でも、その頃の私は、その言葉を素直に受け入れることができず、励ましだったその言葉が、いつの間にかプレッシャーとなり、その言葉から逃げるようにして学校に行けなくなってしまいました。翔洋学園に転入する前、全日制の高校に通っていました。中学校時代不登校だったことで不安はたくさんありましたが、そんな自分でも合格できたということ少しの自信に変えて高校生活をスタートさせました。すぐに友人もでき、思いのほか順調に学校生活を送れるかと少し安心しかけた頃、些細な人間関係のもつれがきっかけで、また学校に行くのが怖いと思うようになってしまいました。親や担任の先生などにも相談し、一年生の夏、通信制高校に転入しました。転入当初の私は、人と関わるのが怖く、なかなか学校に行くことができませんでした。でも、勉強はしっかりやりたいという気持ちがあったので、通信制での学習に少しずつ慣れていきました。通信制では、自分で登校日を決められるようになり、以前は「毎日学校に行かなければならない」というプレッシャーを感じながら、一日一日を乗り越えようとしていたのだと気づきました。通信制ではそれがなくなり、気持ちにゆとりが持てるようになり、少しずつ自分の中に変化が出てきました。（中略）前に進めなくて悩んでいるのなら、自分がやりたいこと、できることでいいからやってみた方がいい。そう考えるようになりました。そこでやってみようと思ったのが、幼い頃から興味があった「演劇」でした。インターネットで地域の劇団を調べ、自分で問い合わせをして、面談を受け、入団できることになりました。（中略）演劇を通して様々な人とコミュニケーションを取るようになり、自分にもできることがあるという自信につながりました。劇団に入る前の自分は、学校に行っても1人であることを好んでいましたが、学校生活の中でもっと色々なことがしたい、友だちも作りたいと思うようになってきました。そう考えるようになってから参加し始めたのがボランティアサークルでした。清掃活動や地域のイベントの補助など、メンバーで打ち合わせをして様々な活動を行っていましたが、その中でも一番印象に残っているのは、地域の介護施設の夏祭りを盛り上げるという活動でした。出し物の内容はみんなで話し合った末、合唱を披露することになりました。メンバーみんな通信制だということをおぼろげに覚えていたように、毎日のように学校に集まり、練習を重ね、本番に向けて練習を行いました。本番では、練習してきた曲を全力で歌いきり、温かい拍手をいただき、終了後、施設の方から、また来て欲しいと言っていただけで、頑張ってきたよかったですと心から思えました。準備の段階では意見が対立することもありましたが、そのお陰でみんなが本音を言い合えるようになりました。この活動を通して、仲間と助け合うことの大切さに気づくことができました。

世の中には不登校に悩んでいる人がたくさんいます。不登校になる原因や時期、きっかけは人によって様々だと思いますが、人によっては長期化してそのまま大人になっても引きこもり状態が続いてしまう人もいます。私自身も、同じ悩みを抱えていましたが、高校生活を通し、多くの人たちにも支えられ、それを乗り越えることができました。だからこそ、自分の経験を活かし、将来はフリースクールの運営に携わり、自分と同じように学校に通えなくなってしまった子どもたちや集団に適應できない子どもたちと接し、前向きに生きられるよう手助けをしていきたいと考えています。高校卒業後は、短期大学に進学し、まずは文化や表現について学び、様々な表現方法や文化・考え方など視野を広げていきたいと思っています。そして、これまで目標にしてきた「自立」した人間となり、社会に貢献していきたいと考えています。

今の私が目指していること。自分の人生というシナリオの中で、自分という役を精一杯演じていくこと。

図書コーナー ～資料の探し方・情報の調べ方～

皆さんは調べものをするとき、どのような探し方をしていますか？最近ではインターネットで調べるという人が多いと思いますが、インターネットの世界では誰もが気軽に情報を発信できるため、誤った情報が紛れている可能性があります。それに対し、出版された資料の情報は著者や出版社が責任をもって世に出しているため、信頼できる内容のものが多いです。今回は、公共図書館を利用した資料の探し方・情報の調べ方の一例をご紹介します。

■図書館で資料・情報を探す

館内の蔵書検索用PCや図書館サイトから資料を探すことができます。検索窓に書名、著者名、出版社等のキーワードを入力して検索します。また、調べたい内容や詳細がはっきりしない場合、用語だけ分かっている場合は、まず参考図書（事典・辞典等）に当たると便利です。複数を見比べて、より詳細に情報を確認することができます。

■探している資料・情報が図書館に無いときは...

他の図書館から資料を取り寄せることができます。また、利用者が必要な資料・情報を得やすいように、図書館スタッフが手伝ってしてくれるレファレンス・サービス（調べもの相談）があります。探している資料・情報が図書館に無いとき、調べもので困ったときは、遠慮なく図書館スタッフに訊いてみましょう。

■便利なデジタルコレクション

国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) ... 国会図書館が収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できます。戦前期・戦後期の刊行図書を中心にデジタル化しています。

青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) ... 主に著作権の消滅した作品をデジタル化し公開しています。文学作品を中心に芸術、哲学、歴史などの本も全文を参照できます。

■インターネット情報を見分ける

インターネットにも役立つ情報はありますが、インターネットで必要な情報を調べる際には、①サイトの作成者・管理者は誰か（官公庁・学校・企業・個人）、②情報は最新のものか（更新日）、という点に十分注意しましょう。

《進路について考える図書紹介》

- 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）
- 村上龍『新 13歳のハローワーク』（幻冬舎）
- 藤原和博『世界でいちばん受けたい授業』（小学館）
- 村上龍『13歳の進路』（幻冬舎）

翔洋の軌跡 ～20年のあゆみを振り返って～

本コーナーでは、来年度開校20年目を迎える翔洋学園高等学校を支える様々な人からのインタビューを通して、学校のこれまでのあゆみをご紹介します。今回ご紹介するのは、日立本校に勤務する事務室の皆さんです。

—開校当初と今の翔洋学園高等学校で変わったことはありますか？—

私たち事務の職員は生徒の皆さんと直接会う機会はほとんどありません。でも、願書や調査書など書類の受け付けを通して、私たちが関わらない翔洋学園の生徒は一人もいません。開校当初と現在で大きく変わったと感じることは、翔洋学園にいろいろな生徒が入学するようになったことです。昔は他の高校からの転校生が中心でしたが、今は中学校からの新生が増えてきました。今は通信制高校での高校生活が一つの選択肢と捉えられるようになってきたと感じています。



左から、中島さん、鈴木事務次長、佐藤さん、飯村事務長、岩間先生

—学校事務職員としての仕事を通してこれからの翔洋学園高等学校に対して思うことはどんなことですか？—

翔洋学園を必要とくださる生徒・保護者の方々が年々増え、近年は少しずつ生徒数が増えています。私たち事務の職員は、皆さんと直接関わる機会は多くありませんが、20年前に創立されたこの翔洋学園がこれからも発展できるよう、学校の仕組みを少しずつ改善しながら皆さんの学校生活を支えていきたいと思っています。

事務室からのひとことアドバイス★

生徒証用の写真は大きすぎると顔しか写っていない生徒証になってしまうので注意してね！



本校に電話をした時に電話に出るのが私たちです。「オレオレ！」と言われても誰か分からないので本校に電話をする時はきちんと名乗ってね！（学習センター名も言ってもらえるとベストです！）

